

2 各事業の概要と統計（昭和51年）

(1) 微生物検査

- 1) 腸内細菌検査は57,909件であったが、腸管系伝染病の赤痢菌、サルモネラ菌は検出されなかった。
- 2) 食中毒の疑いによる細菌検査は23件であったが、食中毒として認定されたものはそのうち5件であった。検出菌の内訳は、ブドウ球菌2件、不明3件であった。
- 3) 食品細菌検査は収去644件、一般依頼481件で、昨年に比べ収去検体が減っているが、項目数が若干増えている。
- 4) ウイルス検査では、風疹の抗体価検査が11,659件あったが、これは昭和50年春から51年秋にかけての風疹の大流行によるものである。

表1 昭和51年（1～12月）検査件数

		検体数	総項目数
便	腸内細菌	57,909	115,818
	寄生虫卵	22,401	22,401
喀痰	結核菌	183	364
	薬剤耐性	4	44
その他	腸内細菌	60	360
	薬剤感受性	207	2,078
食中	便	73	376
	食品	50	334
毒	関連材料	12	80
食品衛生細菌		1,125	4,254
ウイルス	分離(インフルエンザ)	23	23
	血清(インフルエンザ)	433	866
	(風疹)	11,659	11,659
計		94,139	158,657

表2 食品細菌（検体別）

	検体数	総項目数
牛乳・加	82	174
鮮魚介類	233	1,048
冷凍食品	73	405
魚介類加工品	74	295
肉卵類及び加工品	153	787
乳製品	43	71
乳類加工品	8	14
アイスクリーム・氷菓	95	186
穀類及び加工品	42	122
野菜果物及び加工品	61	195
菓子類	17	52
清涼飲料水	58	66
氷雪	4	11
そうざい	123	660
その他	59	168
計	1,125	4,254

表3 ウイルス検査 (由来別)

		保健所	医療機関	その他	自ら行ったもの	計
分離	インフルエンザ	23	—	—	—	23
	その他	—	—	—	—	—
血清	インフルエンザ	240	—	—	193	433
	風疹	5,153	6,248	28	230	11,659

表4 食中毒による細菌検査

発生番号	衛研番号	受付月日	病因推定菌種	病因推定食品	調理場所	所管保健所	患者材料				関連材料		備考
							便・吐物		食食品		検体数	陽性数	
							検体数	陽性数	検体数	陽性数			
1	3	3.15	不明	不明	不明	中央 東白石	2	0	3	0	2	0	便2件より St. aureus (coag-type III) 食品・便より C. welchii (type 不明)
2	8 9	5.26 27	ブドウ 球菌	タマゴ焼 (錦巻)	事業所 飯場	北	18	16	2	1	4	0	St. aureus (coag-type VII)
3	14	6.28	不明	焼そば	飲食店 (弁当)	豊平	21	0	5	0	—	—	
5	19 20	7.27	ブドウ 球菌	おはぎ	飲食店 (弁当)	中央 南	2	2	2	2	—	—	St. aureus (coag-type III)
6	23 24	9.14	不明	チャー ハン	飲食店	中央	4	0	2	0	2	0	

注 札幌市公衆衛生部，食中毒発生状況資料による。

発生数8件中，No.4・7・8は他の機関。

(2) 臨床検査

1) 健康保険診療報酬基準内の検査

検体数は3,909件で前年度とほぼ同数であるが、血球検査やヘマトクリット測定などの簡単な検査が減少し、これに代って中性脂肪測定試験などの成人病検診に付随した検査が増加した。

2) 労働衛生法、公害に関連した特殊臨床検査

検査内容は血液中の重金属分析が主なものであり、検体数は昨年より減少したが、項目数の増加により検査件数は増した。

3) 梅毒検査

検体数は3,856件で前年度とほぼ同数である。このうち保健所依頼によるものが、2,478件で約64%をしめ、残り36%が市内医療施設からのものであった。なおスクリーニング検査として、鋭敏度の高いガラス板法・TPHAの2法の組合せにより検査を実施し、異常がみられた場合、従来のガラス板法・凝集法・緒方法の3法による検査を行っている。

健康者にみられる梅毒陽性並びに陽性率は、一般検診では陽性数13(前年20)、陽性率0.7%(前年0.85%)、妊婦では陽性数3(前年4)、陽性率0.31%(前年0.65%)であり両者の陽性数及び陽性率は、共に前年度に比較して減少した。

表1 臨床検査の項目別検査状況

区 分		件 数	区 分		件 数
血液	ヘマトクリット	395	血液 清	ガラス板法	3,856
	重 金 属	992		凝 集 法	707
	小 計	1,387		緒 方 法	707
血 清	総 蛋 白	101	(2)	TPHA	3,996
	電気泳動A/G比	95		小 計	9,266
	RA・CRP・ASLO	41		そ の 他	4
	中 性 脂 肪	2,381			
	そ の 他	499			
(1)	小 計	3,117		合 計	13,774

表2 健康者にみられた梅毒反応陽性並びに陽性率

検査対象	区 分	検 体 数	陽 性	
			件 数	%
一 般 検 診		1,870	13 (20)	0.69 (0.85)
妊 婦		979	3 (4)	0.31 (0.65)

(3) 環境検査

- 1) 水質検査月別および依頼別検体数は表1のとおりで、一般飲料水（水道水・井戸水）検査は2,394検体で昭和50年より約750検体減少した。これは自家用および営業用井戸水の減少によるものである。水道法全項目検査の依頼は156検体で昭和50年と略同じであった。
- 2) 飲料水検体別検査状況は表2のとおりである。水質基準適否は、水道水定期、臨時検査の適合率は63.4%、自家用井戸水が54.0%、水道法による全項目検査は原水50.0%、浄水59.8%でそれぞれ昨年と略同じであった。
- 3) 特殊項目の検査状況は表3のとおりであり昨年より159件減少した。これは、今年保健所から特殊調査の依頼がなかったことによる。
- 4) 本年中に依頼のあった有害物質を含有する家庭用品検査の状況は表4のとおりである。結果はホルムアルデヒドは425件中基準に適合しないものが乳幼児用9件、大人用9件の18件であり、大人用ではブラジャーに違反品が目立った。また有機水銀化合物は9件の検査を行ない全部基準に適合した。
- 5) 一般市民より依頼のあった飲料水中の水棲生物、衛生動物の検査状況は表5のとおりである。
- 6) 昭和51年中に一般市民より依頼のあった自家用飲料水についての苦情の集計は表6のとおりであり、臭味、濁り、色がつく、油（燈油等）が浮く、などが目立って多かった。このうち油による苦情のあった検体数件についてガスクロマトグラフィによる同定を行なった。

表1 水質検査月別および依頼別検体数

検査別	依頼 検体別	月 類 別	1		2		3		4		5		6		7		8		9		10		11		12		計		合計		
			適合	適合 せず	適合	適合 せず	適合	適合 せず	適合	適合 せず	適合	適合 せず	適合	適合 せず	適合	適合 せず	適合	適合 せず	適合	適合 せず	適合	適合 せず	適合	適合 せず	適合	適合 せず	適合	適合 せず		適合	適合 せず
			適 否		適 否		適 否		適 否		適 否		適 否		適 否		適 否		適 否		適 否		適 否		適 否		適 否			計	
飲料 水	水道	原水					1																				1		1		
		事業所	11	11	10	12	14	9	8	15	10	9	10	13	10	10	10	20	5	14	7	11	10	9	6	3	111	146	257		
	浄水	保健所							1																			1		1	
		医療機関	2	1	1	1	2			2	1		1	1		3	2	1	2	2	3		2		2		18	11	29		
		事業所	42	7	40	8	44	13	38	18	33	13	36	13	37	19	38	19	35	17	46	10	38	18	36	14	463	169	632		
	水道水計		55	19	51	21	61	22	47	35	44	22	47	27	47	32	50	40	42	33	56	21	50	27	44	27	594	326	920		
	一般 井戸 水	家用	保健所																												
			行政機関	2	4	3	13	4	8	2	1	8	3	1	2	1	3	3	7	4	4	1		1	5	2		32	50	82	
			医療機関	9	1	9	2	5	1	5	2	10		7	2	15	2	7	1	8	6	11	2	9	3	8	3	103	25	128	
			事業所	10	17	10	19	19	13	19	14	29	22	17	26	12	22	32	17	22	20	14	20	19	15	12	8	215	213	428	
			その他(個人)	7	13	13	15	20	18	13	26	24	30	23	26	13	18	12	22	9	16	12	14	10	26	14	11	170	235	405	
		計	28	35	35	49	48	40	39	43	71	55	48	56	41	45	54	47	43	46	38	36	39	49	36	22	520	523	1,043		
営業 用	保健所																														
	事業所	46	29	26	14	21	8	8	9	21	11	23	18	18	4	27	17	23	11	19	18	19	11	25	5	276	155	431			
	計	46	29	26	14	21	8	8	9	21	11	23	18	18	4	27	17	23	11	19	18	19	11	25	5	276	155	431			
井戸水計		74	64	61	63	69	48	47	52	92	66	71	74	59	49	81	64	66	57	57	54	58	60	61	27	796	678	1,474			
精密 検査	水道法全項目	原水			1			1		1	1	3			8	6	4	3	4	7	3	4	6	6	6	32	32	64			
		浄水							2	1	3	3	1	8			1	2								7	14	21			
		事業所					1	2		3		1		4	5	7	6	4	4	7	3	9	1	11	3	48	23	71			
	計			1		1	5	1	7	4	5	8	4	13	14	12	7	8	14	6	13	7	17	9	87	69	156				
特殊項目	事業所	5		2		2		2		3		1				4		3		7		4		6		39		39			
	その他							1																		1		1			
	計	5		2		2		3		3		1				4		3		7		4		6		40		40			
一般 環境	浄化槽水																														
	浴槽水	保健所																													
		事業所																								2		2	2		
プール水	事業所	3		5		7	1	7	1	8		6	2	6		6		3		3		3		3		60	4	64			

表2 飲料水検体別検査状況

検査別	適否		適 合 せ ず				計	
	検体別	適 合	化学・細菌	化学のみ	細菌のみ			
飲料水一般検査	水道水	原水	112 43.4%	146 56.6%	13	63	70	258
		浄水	482 72.8%	180 27.2%	15	143	22	662
		計	594 64.5%	326 35.5%	28	206	92	920
	井戸水	自家用	520 49.8%	523 50.2%	117	276	130	1,043
		営業用	276 64.0%	155 36.0%	20	94	41	431
		計	796 54.0%	678 56.0%	137	370	171	1,474
	一般検査計		1,390 58.1%	1,004 41.9%	165	576	263	2,394
精密検査	水道水全項目	原水	32 50.0%	32 50.0%	7	16	9	64
		浄水	55 59.8%	37 40.2%	4	27	6	92
		計	87 55.7%	69 44.3%	11	43	15	156

下段の数字は百分率%

表3 特殊検査項目・内容別件数

検査項目	件数				昭和50年計	検査項目	件数				昭和50年計
	昭和51年	適合	適合せず	基準なし			昭和51年	適合	適合せず	基準なし	
総鉄	45	50		95	136	濁度	1			1	3
マンガン	6			6	34	色度					10
銅	3	1		4	26	水素イオン濃度	2			2	2
亜鉛	2			2	31	残留塩素			13	13	11
鉛					14	塩素イオン	2			2	
水銀					3	有機磷					3
カドミウム					4	硫化物			2	2	2
6価クロム	6			6	22	硫酸イオン			5	5	5
アルミニウム			12	12	3	総アルカリ			3	3	3
C O D	3			3		総酸度			1	1	
総硬度	3			3	2	溶性珪酸			2	2	4
陰イオン活性剤	5	1		6	2	導電率			2	2	5
n-ヘキサン抽出物					2	その他	3			3	11
浮遊物			6	6		計	81	52	46	179	338

表4 月別家庭用品検査件数

区分 月	ホルムアルデヒド検査								有機水銀検査			品 目 数 計	検 査 件 数 計	
	乳幼児用				大人用				品 目 数	検査件数				
	品 目 数	検査件数			品 目 数	検査件数				適 合	適 合 せ ず			計
		適 合	適 合 せ ず	計		適 合	適 合 せ ず	計						
1	12	14		14								12	14	
2	47	44	4	48	33	37	2	39	※	8		8	80	95
3	36	34	5	39	32	37	3	40					68	79
4					13	19		19					13	19
5					2	4		4	※	1		1	2	5
6					2	5	1	6					2	6
7					10	12		12					10	12
8	20	25		25	27	33	2	35					47	60
9	6	10		10	6	12		12					12	22
10	11	17		17	6	15	1	16					17	33
11	13	18		18	5	14		14					18	32
12	30	42		42	8	15		15					38	57
計	175	204	9	213	144	203	9	212		9		9	319	434

※印は同一品目でホルムアルデヒド、有機水銀の両検査を行なった。

表5 水棲生物・衛生動物検査状況

区分	生物名	件数
水棲生物	鉄バクテリア類 分裂菌植物	13
	繊毛虫類 原生動物	4
	鞭毛虫類 原生動物	6
	わむし類 輪形動物	1
	— 不完全菌植物	2
衛生動物	やぶかの幼虫 節足動物・昆虫	1
	あぶらむし類 節足動物・昆虫	1
	かにむし類 節足動物・くも形綱	1

表6 一般飲料水の苦情集計

		苦 情 事 項	例 数
生 水 の 状 態	臭 ・ 味	腐 敗 臭	9
		金 気 臭	6
		臭 味 が あ る	4 3
		硫 化 水 素 臭	5
		黴 臭	2
		油 様 臭	9
	色 ・ 濁 り	黒 づ む	2
		褐 色 に 濁 る	1 3
		白 色 に 濁 る	8
		金 気	3
		色 が 着 く	8
	浮 遊 物 ・ 沈 澱 物	油 が 浮 く	1 9
		褐 色 浮 遊 物	2
		白 色 浮 遊 物	3
		沈 澱 物	1
		鉄 錆 様 沈 澱 物	3
		砂 が 沈 む	1
	そ の 他	泡 が た つ	2
		石 鹼 の 泡 立 ち が 悪 い	2
		洗 濯 物 の 色 が 変 わ る	4
		水 棲 生 物 が 存 在	4
沸 か し た 水 の 状 態	臭 ・ 味 ・ 色 ・ 濁 り	臭 味 が あ る	2
		色 が 変 わ る	7
		褐 色 に 濁 る	3 2
		白 色 に 濁 る	4
	浮 遊 物 ・ 沈 澱 物	油 分 が 浮 く	1
		水 垢 が た ま る	1 2
		褐 色 の 沈 澱	1 0
		白 色 の 沈 澱	1 9
		異 物 が 生 じ る	3
		容 器 が 腐 蝕 す る	2

(4) 食品検査

1) 食品検査（食品等の収去試験年報、乳の収去試験、年報及表2参照）

収去検査は昨年12月より引継ぎ食品容器包装中の塩化ビニールモノマー検査を3月中旬まで行ったが、検査した55検体中（自ら行ったものを含む。）6検体が1ppmをこえたが、いずれも49年前半までに製造されたもので、49年後半以降のものからは全く検出されなかった。（50年年報参照）

依頼検査は特に教育委員会からの依頼が多かったが、9月には合成樹脂食器中のBHTの溶出が問題となり、同委員会の依頼で検査を行ったが、ヘプタン抽出のものからは微量ではあるが検出された。しかし90°Cの水で抽出したものからはいずれも不検出であった。

検体数は収去、依頼、それぞれ増減はあるものの総件数では、ほぼ昨年並みであった。

表1 検体数の比較

	51年	50年
収去検査	887(件)	1,014(件)
依頼検査	561	485
計	1,448	1,499

2) 製品検査（食品衛生製品検査年報参照）

製品検査はかんすい、タール色素製剤共に減少した。（総件数前年比31.7%減）特にタール色素製剤は大手メーカーの製造中止により激減した。（前年比80%減）実施した619件（かんすい565件、色素製剤54件）には規格に違反するものは全くなかった。

3) 農薬検査（表3、表4）

農薬検査は27種80検体の検査を行ったが、ホウレン草1検体から規準値を上回るEPMが検出されたのみで外には問題となる検体はなかった。

表2 食品月別検体数

51年1月より51年12月

月	収去検体数	製品 { かん水 色素 } 検体数	依頼 { 一般 行政 } 検体数	研究検体数	計
1	94	66 { 47 19 }	19 { 19 0 }	28	207
2	0	68 { 53 15 }	27 { 27 0 }	30	125
3	42	38 { 34 4 }	67 { 63 4 }	21	168
4	39	54 { 54 0 }	33 { 33 0 }	15	141
5	77	45 { 41 4 }	69 { 44 25 }	12	203
6	49 (6)	46 { 41 5 }	50 { 33 17 }	10	155
7	135 (15)	69 { 69 0 }	37 { 33 4 }	4	245
8	56 (12)	33 { 26 7 }	27 { 21 6 }	10	126
9	72 (14)	59 { 59 0 }	61 { 33 28 }	15	207
10	70	45 { 45 0 }	38 { 20 18 }	10	163
11	99 (12)	33 { 33 0 }	35 { 24 11 }	10	177
12	154 (21)	63 { 63 0 }	98 { 51 47 }	15	330
計	887 (80)	619 { 565 4 }	561 { 401 160 }	180	2,247

収去の () 内は農薬検査の内数

表 3-1 昭和 51 年収去野菜・果実中の塩素系農薬及び重金属 (単位: ppm, nd: 不検出, tr: 痕跡)

Sample	No. of Sample	No.	B H C					D D T					ド リ ン				クロルベンジレート	ジコホール	キャブタン	カブタホール	As ₂ O ₃	Pb	Sn	カルバリル			
			α-	β-	r-	S-	総-	OP-	PP-	DDD	DDE	総-	アルドリン	ディルドリン	総-	エンドリン											
夏みかん	3	1	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	0.20	-	nd		
		2	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	0.13	-	nd		
		3	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	0.17	-	nd		
みつば	3	1	0.003	nd	0.001	nd	0.004	0.003	0.012	nd	0.002	0.017	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	-	-	-		
		2	0.002	nd	tr	nd	0.002	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	-	-	-		
		3	0.002	nd	0.001	nd	0.003	0.001	0.004	nd	0.001	0.006	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	-	-	-		
ほうれん草	3	1	tr	0.002	0.002	nd	0.004	tr	0.006	nd	0.001	0.006	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	0.05	0.81	-	nd		
		2	tr	tr	tr	nd	tr	nd	tr	nd	tr	tr	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	0.54	-	nd		
		3	tr	0.001	0.001	nd	0.001	nd	0.003	nd	tr	0.003	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	0.02	0.64	-	nd		
かぶ	3	1	nd	0.001	nd	nd	0.001	nd	nd	nd	tr	tr	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
		2	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	tr	tr	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
		3	nd	tr	nd	nd	tr	nd	nd	nd	tr	tr	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
アスパラガス	3	1	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	-	-	-			
		2	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	-	-	-		
		3	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	-	-	-		
いちご	3	1	nd	tr	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	0.05	0.15	-	-		
		2	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	0.06	-	-		
		3	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	0.03	0.10	-	-		
びわ	3	1	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	-	-	-	-		
		2	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	-	-	-	-	
		3	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	-	-	-	-	
さやえんどう	3	1	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	-	-	-	-	
		2	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	-	-	-	-	
		3	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	-	-	-	-	
さやいんげん	3	1	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	-	-	-	-	
		2	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	-	-	-	-	
		3	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	-	-	-	-	
桜桃	3	1	tr	nd	nd	nd	tr	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	0.080	-	-	-	-	
		2	tr	nd	nd	nd	tr	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	0.027	-	-	-	-
		3	tr	nd	nd	nd	tr	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	-	-	-	-	-
なす	3	1	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	-	-	-	-	
		2	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	-	-	-	-	-
		3	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	-	-	-	-	-
大根(根)	3	1	0.002	0.004	0.001	tr	0.006	nd	0.004	nd	nd	0.004	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	-	-	-	nd		
		2	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	-	-	-	nd	
		3	0.001	0.002	tr	nd	0.003	nd	0.001	nd	nd	nd	0.001	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	-	-	-	nd	

表4 昭和51年収去野菜・果実中の燐系農薬
(単位：ppm, nd：不検出, tr：痕跡)

Sample	No. of Sample	No.	パラチオン	EPN	馬拉チオン	ダイアジノン	フェニトロチオン	フェンチオン	ジクロルポス	フェントエート	ジメトエート	クロルフェンピホス
夏みかん(実)	3	1	nd	nd	nd	nd	—	—	—	—	nd	—
		2	nd	nd	nd	nd	—	—	—	—	nd	—
		3	nd	nd	nd	nd	—	—	—	—	nd	—
みつば	3	1	nd	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		2	nd	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		3	nd	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ほうれん草	3	1	nd	0.175	nd	nd	—	—	nd	—	—	—
		2	nd	nd	nd	0.002	—	—	nd	—	—	—
		3	nd	nd	nd	nd	—	—	nd	—	—	—
かぶ(根)	3	1	nd	nd	nd	nd	—	—	—	—	—	—
		2	nd	nd	nd	nd	—	—	—	—	—	—
		3	nd	nd	nd	nd	—	—	—	—	—	—
アスパラガス	3	1	nd	—	—	—	—	—	nd	—	—	—
		2	nd	—	—	—	—	—	nd	—	—	—
		3	nd	—	—	—	—	—	nd	—	—	—
いちご	3	1	nd	nd	nd	nd	nd	—	—	—	—	—
		2	nd	nd	nd	nd	nd	—	—	—	—	—
		3	nd	nd	nd	nd	nd	—	—	—	—	—
びわ	3	1	nd	—	—	—	nd	—	—	—	—	—
		2	nd	—	—	—	nd	—	—	—	—	—
		3	nd	—	—	—	nd	—	—	—	—	—
さやえんどう	3	1	nd	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		2	nd	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		3	nd	—	—	—	—	—	—	—	—	—
さやいんげん	3	1	nd	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		2	nd	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		3	nd	—	—	—	—	—	—	—	—	—
桜桃	3	1	nd	nd	—	nd	0.002	—	—	—	—	—
		2	nd	nd	—	0.006	nd	—	—	—	—	—
		3	nd	nd	—	0.006	0.007	—	—	—	—	—
まくわうり	3	1	nd	—	—	nd	—	—	—	—	—	—
		2	nd	—	—	nd	—	—	—	—	—	—
		3	nd	—	—	nd	—	—	—	—	—	—
なす	3	1	nd	nd	nd	nd	nd	—	nd	—	—	—
		2	nd	nd	nd	nd	nd	—	nd	—	—	—
		3	nd	nd	nd	nd	nd	—	nd	—	—	—
大根(根)	3	1	nd	nd	nd	nd	—	—	nd	—	—	—
		2	nd	nd	nd	nd	—	—	nd	—	—	—
		3	nd	nd	nd	nd	—	—	nd	—	—	—
メロン	3	1	nd	—	—	nd	—	—	—	—	—	—
		2	nd	—	—	nd	—	—	—	—	—	—
		3	nd	—	—	nd	—	—	—	—	—	—

Sample	No. of Sample	No.	パラチオン	EPN	馬拉チオン	ダイアジノン	フェニトロチオン	フェンチオン	シクロルボス	フェントエート	ジメトエート	クロルフェンピルボス
かぼちゃ	2	1	nd	—	—	nd	nd	—	—	nd	—	—
		2	nd	—	—	nd	nd	—	—	nd	—	—
		3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ぶどう	3	1	0.002	nd	—	nd	nd	—	nd	—	—	—
		2	nd	nd	—	nd	0.001	—	nd	—	—	—
		3	0.005	nd	—	0.001	nd	—	nd	—	—	—
キャベツ	3	1	nd	nd	nd	nd	—	—	—	—	—	nd
		2	nd	nd	nd	nd	—	—	—	—	—	nd
		3	nd	nd	nd	nd	—	—	—	—	—	nd
りんご	3	1	nd	nd	nd	0.004	nd	—	—	—	—	—
		2	nd	nd	nd	0.001	nd	—	—	—	—	—
		3	nd	nd	nd	0.004	nd	—	—	—	—	—
西洋なし	3	1	nd	—	—	nd	0.001	—	—	nd	—	—
		2	nd	—	—	0.001	nd	—	—	nd	—	—
		3	nd	—	—	0.001	nd	—	—	nd	—	—
日本なし	3	1	nd	nd	nd	0.017	nd	—	nd	nd	—	—
		2	nd	nd	nd	0.006	0.001	—	nd	nd	—	—
		3	nd	nd	nd	nd	0.083	—	nd	nd	—	—
ぼれいしょ	3	1	nd	nd	nd	nd	—	nd	—	—	nd	nd
		2	nd	nd	nd	nd	—	nd	—	—	nd	nd
		3	nd	nd	nd	nd	—	nd	—	—	nd	nd
柿	3	1	nd	nd	nd	nd	nd	—	—	—	nd	—
		2	nd	nd	nd	nd	nd	—	—	—	nd	—
		3	nd	nd	nd	nd	nd	—	—	—	nd	—
はくさい	3	1	nd	nd	nd	nd	—	—	—	—	—	—
		2	nd	nd	nd	nd	—	—	—	—	—	—
		3	nd	nd	nd	nd	—	—	—	—	—	—
にんじん	3	1	nd	nd	nd	—	—	—	—	—	—	—
		2	nd	nd	nd	—	—	—	—	—	—	—
		3	nd	nd	nd	—	—	—	—	—	—	—
かんしょ	3	1	nd	—	—	nd	—	—	—	—	—	—
		2	nd	—	—	nd	—	—	—	—	—	—
		3	nd	—	—	nd	—	—	—	—	—	—
みかん	3	1	nd	nd	nd	—	nd	—	—	nd	nd	—
		2	nd	nd	nd	—	nd	—	—	nd	nd	—
		3	nd	nd	nd	—	nd	—	—	nd	nd	—
さといも	3	1	nd	—	nd	nd	—	—	—	—	—	—
		2	nd	—	nd	nd	—	—	—	—	—	—
		3	nd	—	nd	nd	—	—	—	—	—	—

(5) 大気検査

- 1) 大気汚染検査における総実施件数は2,659件で前年に比べ9%減とやや下廻ったが、これは突発的な緊急検査の減少、悪臭発生施設の廃止等に伴う件数減であり、反面、定点測定における地点増設、新規有害物質の追加により昭和51年度では約20%の業務増(歳入増)となる見込みである。
- 2) 自動車排ガス調査では、市内の主要交差点4地点について夏・冬の2回窒素酸化物、鉛等について検査を行っている。ガソリンの低鉛化対策が推進されたこともあり、全地点とも鉛汚染が大幅に減少した反面、窒素酸化物の濃度は増加の傾向にあり、特に一酸化窒素は冬季において各地点とも前年を上廻った。
- 3) 重油中のイオウ分析は、前年とはほぼ同数の検査を実施したが、前年に引続き燃料規制が図られ0.8%規制区域が0.5%、2.3%以下地域が12.1%以下となり、今後、本市のイオウ酸化物濃度はさらに減少することが予測される。
- 4) 悪臭分析は、本市で最も問題の多かった悪臭発生施設が営業を廃止したこともあり、検査数は減少した。なお、本年は下水処理場を主な対象として135件実施した。
- 5) 環境汚染調査は本市の大気汚染状況を把握する目的で昭和50年度より本格的に実施しているが、本年の実施件数は305件で前年の55%増となっている。検査内容はハイボリ捕集による浮遊じん中の重金属で鉛・カドミウム等6項目のほか、新たに発ガン物質のベンツピレンを検査項目に追加した。又、植物影響調査はニセアカシヤを対象に昭和49年より継続して重金属分析を行っているが、本年は地点を縮小し、6地点108検体について実施した。
- 6) 大気検査における検査項目は表1、又、月別検査別実施検体数は表2のとおりである。

表1 大気汚染検査項目

検体区分	検体項目
降下塵	貯水量, 総量, タール分, タール外炭素分, 灰分, PH, Cl ⁻ , NH ₃ , SO ₄ ²⁻ , Ca ⁺
降下塵金属	Fe (酸可溶, 酸不溶), SiO ₂
亜硫酸ガス	PbO ₂ 法
窒素酸化物	アルカリ濾紙法
自動車排ガス	浮遊塵量, NO, NO ₂ , Pb, Cd, Mn
重油イオウ分析	放射線吸収法
浮遊塵中の金属	浮遊塵量Pb, Cd, Cu, Zn, Mn, Fe, B(a)P
樹葉中の重金属	Pb, Cd, Cu, Mn, Zn, Fe
悪臭物質	悪臭5物質

表2 検査月別，検査別検体数

昭和51年中

検査別		月別												51年 合計	前年 合計	51 50
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12			
降下塵	媒じん量	14	14	14	4	4	4	4	4	3	14	13	14	106	107	0.99
	金属		42	42		12		12		12		42		162	204	0.79
いおう酸化物(PbO ₂)		38	38	38	38	40	40	38	38	38	37	38	38	459	471	0.97
窒素酸化物(NO ₂)		30	38	45	30	34	28	36	36	36	36	36	36	421	352	1.20
自動車排ガス				320						319				639	693	0.92
重油分析		118	88	3		1						1	1	212	227	0.93
環(重 境金 属)	浮遊塵中		9				170						126	305	197	1.55
	樹葉								36	36	36			108	172	0.63
	土壌													0	0	0
その他	ベンツヒレン												21	21	-	-
悪臭物質										135				135	175	0.77
その他							70						21	91	339	0.27
合計		200	229	462	72	91	312	90	114	579	123	130	257	2,659	2,937	0.91

(6) 水質検査

1) 水質汚濁検査における総取扱件数は表1の通り10,623件で前年と殆んど変わらなかった。

依頼別件数では行政依頼(主として市公害部よりのもの)は1,026件で取扱件数の9.7%を占め、昭和50年、49年とほぼ同じであった。その他の依頼では、事業所は357件で前年に比し52%の減となった。これは市内の民間の検査機関の施設の増加、充実に伴い、検査の依頼が民間に移行していることによるものと考えられ、今後もこのような傾向がみられるものと予想される。自自行なうものについては107件で前年に比し約4倍の増加を示したが、これは昭和51年度の環境庁の委託事業(51年中は80件)が含まれることによる。

2) 河川水質調査: 行政依頼検査の取扱件数は6,081件で前年に比し8%増を示した。これは公共用水域の水質監視測定 of 取扱件数が5,048件で前年の6%減となったのに対し、その他の検査では1,033件で、例年の有害物質環境汚染調査、苦情処理等による検査に加えて河川流域調査(一般水質、重金属分析等600件)が実施されたことによる3.4倍増によるものである。自自行なうものについての取扱件数は80件で、環境庁委託の化学物質環境調査(ジフェニールエーテル、ジフェニールアミン等の河川水、底質分析)によるものである。

3) 鉱山排水関連河川水、鉱山排水調査: 鉱山排水関連河川水調査の取扱件数は737件で前年の8%減となっており、鉱山排水調査は672件で2.4%減となった。これは前年、市内の鉱山堆積場の重金属影響調査に関連して実施された検査が本年実施されなかったことによる件数減である。

- 4) 工場排水等調査：工場排水等検査の取扱件数は行政依頼として2,548件で前年の13%増となった。これは昭和49年からの工場排水監視強化に伴う増分で、今後もこのような傾向が続くものと予想される。
- 5) その他の検査：前年より継続の鉱山堆積場の重金属影響調査（土壌、岩石等の分析）164件と環境庁による環境分析統一精度管理調査に依る検査（9件）等が実施されたが、件数は前年の40%に減少した。

表 1 水質検査依頼別，月別検体数

検査別	月 別												51年 合計	50年 合計	51年 5.08	50年 2.42
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12				
河川水 (環境水質監視等)	行政機関	546	449	537	278	768	421	735	720	675	273	398	281	6,081	5,651	1.08
	事業所	22	2		6					9	36			75	31	2.42
	自ら行ったもの 計	(568)	(451)	(537)	(278)	(768)	(427)	(735)	(720)	(684)	(349)	(398)	(321)	(6,236)	(5,682)	1.10
鉾山排水定点調査等 (関連河川水を含む)	行政機関	79	45	55	93	47	61	74	40	54	81	47	61	737	799	0.92
	事業所															
	自ら行ったもの 計	(79)	(45)	(55)	(93)	(47)	(61)	(74)	(40)	(54)	(81)	(47)	(61)	(737)	(799)	0.92
鉾山排水 (豊羽系処理排水監視)	行政機関	142	38	38	38	38	38	150	38	38	38	38	38	672	890	0.76
	事業所															
	自ら行ったもの 計	(148)	(38)	(38)	(38)	(38)	(38)	(150)	(38)	(38)	(38)	(38)	(38)	(678)	(890)	0.76
工場排水等	行政機関	385	355	213	114	103	187	175	290	219	217	208	82	2,548	2,245	1.13
	事業所	11	10	34	11	3	10	24	50	13	2	4	3	175	481	0.36
	自ら行ったもの 医療施設				12									12	21	0.57
地下水	行政機関	(396)	(365)	(247)	(137)	(106)	(197)	(199)	(340)	(232)	(219)	(212)	(85)	(2,735)	(2,763)	0.99
	事業所	4			15	12		8			12	9	4	64	176	0.36
	自ら行ったもの 計	(4)			(15)	(12)		(8)			(12)	(9)	(4)	(64)	(178)	0.36
その他 (土壌, 岩石, 生物等)	行政機関	14		3	42		88			10	1	6		164	422	0.39
	事業所														3	
	自ら行ったもの 計	(14)	(3)	(3)	(42)		(88)			(10)	(10)	(6)		(173)	(436)	0.40
合計	行政機関	1,170	887	846	580	968	795	1,142	1,088	996	622	706	466	10,266	10,183	1.01
	事業所	33	12	34	11	3	16	24	50	22	38	4	3	250	517	0.48
	自ら行ったもの 医療施設	6			12						49		40	107	27	3.96
計	(1,209)	(899)	(880)	(603)	(971)	(811)	(1,166)	(1,138)	(1,018)	(709)	(710)	(509)	(10,623)	(10,748)	0.99	

(註) 地下水一般を除く他の検査については検査項目数を計上した。

表 2 水質検査項目

検体区分	検査項目内容
河川水 (底質含む)	PH, DO, BOD, COD, SS, 大腸菌群, 油分, ABS, CN^- , Sb, Cd, As, Pb, Cr, Hg, Cu, Zn, Mn, Fe, F', フェノール, Cl^- , 有機磷, 有機水銀, 有機塩素, 全窒素, 全磷, $SO_4^{=}$, $PO_4^{=}$, NH_3 , PCB, フタル酸エステル, シフェニルエーテル, シフェニルアミン, オキシエタノール類, ジオキサン
鉾山排水関連河川水 鉾山排水	PH, Cd, Mn, Pb, As, Cu, Zn, CN^-
工場排水等	PH, BOD, COD, SS, 油分, 大腸菌群, CN^- , Cr^{+6} , その他金属類 PCB, PCB(底質)
地下水	飲用適否の一般項目 Zn, Mn, Cd, $SO_4^{=}$, CN^- , Cr^{6+} , Ni, アルカリ度
その他	土壌, 岩石, 鉾石: Cr, Cr^{+6} ; Pb, Zn, Cd, Mn, As, Cu, Hg 河川生息魚: Cd, PCB その他